次期学習指導要領 教科別まとめ　　小学校 No.01

審議まとめ（2026年10月5日）を**小学校の先生向け**にまとめ直しました

小学校版

国語

次期学習指導要領で、どう変わる？

話す・書く・読むを「話や文章の機能」でつなぐ教科へ



10秒でいうと　話す・聞く、書く、読むを「話や文章の機能」でつなぐ。手書きの書写を引き続き重視

やさしく言うと

国語は、話す・聞く、書く、読むの学習をつなぐ方向です。カギは「話や文章の機能」（仮称）です。これは、文章が社会で果たす役割のことです。たとえば「考えや主張の理由付けと吟味」があります。言葉の知識は、使いながら深めるものと、教養として深めるものに分けて整理する案です。小学校では、手で書く書写の指導を丁寧に進めるとされています。

小学校はいつから？

全面実施	**2030年度（令和12年度）から（見込み）**
移行期間	2028～2029年度
告示	2026年度末の予定
教科書	2030年度から新しい教科書（2028年度に検定）

この冊子の中身

1 国語のポイント　4つ
2 主な変更点　9項目
3 現行と次期の比較（新旧対照）　5項目
4 授業時数
5 生成AI・ICTとの付き合い方　7項目
6 今からできる準備チェックリスト　7項目
7 次期を先取りする授業アイデア　1本
8 指導案（試案）　1本
9 現行の学習指導要領・解説（小学校）

無料　原田英語.com 次期学習指導要領ナビ

研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。ご連絡は不要です。クレジットは残してください。
審議まとめ（2026年10月5日）準拠・出典ページつき。告示前の方向性で、今後変わることがあります。2026年11月4日 版

サイトで見る

国語の3行要約（全校種）

1. 話や文章が社会で果たす役割(「話や文章の機能」(仮称))を軸に、話す・聞く、書く、読むの学習を関連付けて計画できるよう内容を整理し直す方向。
2. 「知識及び技能」は「運用しながら深める」面と「教養として深める」面の2つに分け、漢字などの事項もまとめ直して精選する案。
3. 高校は必履修2科目の枠組みと単位数を保ったまま、選択科目を標準2科目(各8新単位)と発展4科目(各4新単位)に組み替える案(科目名は仮称)。

※高校の新科目名(現代の国語Ⅰ・Ⅱ、言語文化Ⅰ・Ⅱ、論説と批評ほか発展4科目)と「話や文章の機能」は仮称。

1 国語のポイント

4つ

1 「話や文章の機能」で3つの領域をつなぐ

今は、話す・聞く、書く、読むの学習が別々に意識されがちです。次期は、文章の役割(機能)ごとに指導事項を整理する方向です。たとえば「論説を読む」「意見文を書く」「提案のスピーチをする」を、同じ機能の学習としてつなげやすくします。 P131 P134 P139

授業では、たとえば 説明文で学んだ「主張と理由」の形を、次の単元の意見文やスピーチでも使う。そんなつなげ方が考えられます。

2 言葉の知識を2つの面に分ける

知識は「運用しながら深める」面と「教養として深める」面に分ける案です。前者は文章の組み立てなど、使いながら身に付けるものです。後者は言葉のきまり、古典、書写、読書などです。漢字の「読み書き」と「成り立ち」も一つにまとめる例が示されています。 P131 P135 P138

授業では、たとえば 新出漢字を、部首や成り立ち、意味と結び付けて読み書きする。そうした学び方が、この方向に合う一例として考えられます。

3 手で書く書写を丁寧に

タイピングで文字を入力する機会が増えても、書写は引き続き重視するとされています。とくに小学校では、手書きの書写を丁寧に指導する方向です。書くのが苦手な子には、デジタルの活用や代わりの方法を用意することも明確にするとしています。 P141

授業では、たとえば 書写では字形や筆順を確かめて整えて書く。日記など表現の手段として書く文字とは、評価を分けて考えるのが一例です。

4 ローマ字は3年の国語、入力は「情報の領域」で

ローマ字の学習は、今どおり小学校3年の国語で行う方向です。ローマ字入力のタイピングは、総合的な学習の時間の「情報の領域」（仮称）が中心に担うとされています。要約など、育てたい力に直結する場面では、生成AIを不用意に使わないよう慎重にとしています。P140

授業では、たとえば 要約の単元では、まず自分で要約を書き、生成AIの出力は後で比べて吟味する材料にする。そうした順番が考えられます。

2 主な変更点

9項目

1. 「話や文章の機能」（仮称）で3つの領域の学習をつなぐ

これまでは「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の学習がばらばらに意識されがちでした。次期は、話や文章が社会の中で果たす主な役割を「話や文章の機能」として整理し、その機能ごとに指導事項を並べる方向です。機能は「事実や知識の整理と理解」「考えや主張の理由付けと吟味」「思いや経験の表出と想像」「協働による考えの深化や合意」（いずれも仮称）などです。たとえば「論説を読む」「意見文を書く」「提案のスピーチをする」を、同じ「考えや主張の理由付けと吟味」の学習としてつないだ年間計画が立てやすくなります。P131 P134 P139

2. 「思考力、判断力、表現力等」の示し方を、文章の種類と考える要素の「ひとまとまり」に

今は学習過程ごとに細かく分けた事項と、話や文章の種類ごとの言語活動例が別々に書かれています。次期は「話や文章の機能」を軸に、扱う文章の種類と、そこで働かせる考え方をまとめて一つの事項として示す方向です。例として「書くこと」では、「意見を述べる文章」と「主張を明確にする」「根拠を検討する」などを一括りにします。学習過程も簡単になり、話す・書くは「考えの形成／表現・推敲」、聞く・読むは「構造と内容の理解・解釈／考えの形成」にそろえる方向です。P134 P138

3. 「知識及び技能」を「運用しながら深める」と「教養として深める」の2つに整理

言葉の知識を、使う場面がはっきりするよう2つの面に分ける案です。(1)運用しながら深める事項は、文章の構造や表現の仕方など、話す・書く・読む中で使って身に付けるものです。(2)教養として深める事項は、言葉のきまり、古典、書写、読書などを、その意味や価値と結び付けて理解するものです。事項は「事項のまとまり」に分けて示し、たとえば今は別々の「漢字の読みと書き」と「漢字の偏やつくり、由来や特質」を一つにまとめるとしています。P131 P135 P138

4. 評価のやり方の整理（形成的評価を重く、まとめの評価は後で）

短い単元ごとに最終評価まで行おうとして、途中の見取りや声かけがしにくい、単元後に知識だけのペーパーテストで評価する、といった実態が課題とされています。次期は、学習の途中では形成的評価（学習の改善に生かす評価）を行い、単元の成果として力が総合的に発揮されているかで総括的評価をする、という考え方を示します。運用しながら深める知識は複数の単元を経てから、教養として深める知識は単元末や学期末などにまとめて評価することが考えられるとしています。P129 P142

5. 生成AIの使い方とローマ字入力の扱い

生成AIを含むICTは、授業のねらいに合うときに使うのが原則で、AIが出した答えも比べて吟味する対象とします。要約する、最初の考えを書く、文章の構成を考えるなど、その単元で育てたい力に直結する場面では、AIを不用意に使わないよう慎重になるべきだとしています。評価では、集めた情報の信頼性や妥当性を確かめて自分で考え表現できているかを、より重視します。ローマ字の学習は今どおり小学校3年の国語で行い、ローマ字入力のタイピングは「総合的な学習の時間・情報の領域」が中心に担う方向です。P129 P140

6. 教科書の教材を「基幹教材」と「関連教材」に分ける

教科書の中で、力を育てる中心になる「基幹教材」と、学校や子どもの状況に合わせて使い方を変えられる「関連教材」をはっきりさせることが考えられています。同じ「話や文章の機能」に関わる教材をまとめて扱い、重なりを減らして教科書の内容を精選することが考えられています。調整授業時数で時数を増減する場合や高校で単位数を増減する場合は、必要な内容を保障したうえで関連教材の使い方を調整することで対応できるとしています。P139

7. 情報の扱い方・語彙・読書・古典の学習をさらに改善

情報の扱い方は、「情報どうしの関係を整理する力」と「情報の信頼性や妥当性を見極める力」という性質の違う2つの力を、学年に応じて系統的に示す方向です。語彙は、文脈の中で言葉を使って語感を磨く学習と、言葉の意味や関係を理解して語彙を増やす学習を両方進めます。読書は、きっかけづくりと、自分から読む読書へ移るための学習を充実させ、学校図書館との連携も進めます。高校の古典は、文語文法と口語訳に偏った指導を見直し、小中との接続や言語文化への理解を深める学習を重視するとしています。P136

8. 小 中 書写：手で書く指導を引き続き重視

タイピングなどで文字を入力する機会が増えても、小中学校での書写の指導は引き続き重視し、特に小学校では手書きの丁寧な指導を進めます。字を書くことに困難がある子には、デジタルの活用や代わりの方法を積極的に用意することを明確にします。評価では、書写で見る「文字を整えて書く力」と、ほかの学習で表現の手段として書く文字とを区別し、何を評価するのかをはっきりさせる方向です。P141

9. 小 中 柔軟な教育課程：調整授業時数・学年をまたぐ指導

国語も「調整授業時数制度」の対象教科です。生み出した「裁量的な時間」の例として、総合的な学習の時間での方言の探究、辞書を使った語彙の指導、ビブリオバトル（書評合戦）や読書会、演劇や文芸創作のプログラム、国語の単元づくりの研究・研修などが挙がっています。また学年ごとの区分は残しつつ、指導の時期を前倒し・後ろ倒しすることを認め、まとまった時間で学び直しをしやすくする方向です。P141 P142

3 現行と次期の比較（新旧対照）

5項目

黄色のマーカー＝次期で新しく入る・強く打ち出される言葉　~~取り消し線~~＝現行から消える・言い方が変わる言葉

項目	現行	次期（審議まとめの方向）
国語の「見方・考え方」	「言葉による見方・考え方」として、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味・働き・使い方などに着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること。	「様々な事象を表す**自他の言葉**を」、その意味や働き、使い方に着目して吟味し、「**多様な立場や考えを理解して、よりよく伝え合おうとする**こと」と、より短く示す（案）。P132
「思考力、判断力、表現力等」の学習過程	領域ごとに学習過程が違い、細かく分かれている（例：「読むこと」は「構造と内容の把握」「精査・解釈」「考えの形成」「共有」など）。	領域どうしでそろえる。話す・書く＝「**考えの形成／表現・推敲**」、聞く・読む＝「**構造と内容の理解・解釈／考えの形成**」、話し合う＝「**考えの形成**」。P129 P134
言語活動例・指導事項の示し方	学習過程ごとに細分化した事項と、3領域別・話や文章の種類別の言語活動例を別々に示している。	「**話や文章の機能**」（仮称）を軸に、扱う話や文章の種類と、思考・判断・表現の要素を一体にした「**一括りの事項**」として示す。P129 P134 P138
「知識及び技能」の示し方	個々の事項が独立して並ぶ（例：「漢字の読みと書き」と「漢字の偏やつくり、由来や特質」が別の内容）。どの知識を活用重視にし、どれを取り立てて学ぶのかが明確でない。	「（1）**運用しながら深める**事項」と「（2）**教養として深める**事項」に分け、「**事項のまとまり**」で構造的に示す。漢字の読み書きと漢字の構成などは一つの事項に統合。P129 P135 P138
ローマ字とタイピング	小学校3年の国語でローマ字を学び、それに関連してコンピュータでローマ字などを入力する基本操作も学習している。	ローマ字の学習は今どおり国語の小学校3年で行う。ローマ字入力のタイピングは「**総合的な学習の時間・情報の領域**」が中心に担う方向。P140

4 授業時数

小中の国語の標準授業時数の具体的な数字は示されていない。総論では、新教科・領域の時数を確保するため、小学校3年以上で現在35コマ以下のものを除く教科等から一律3～4%程度を「広く薄く」減らす考え方が示され、実数は今後検討とされている（P79）。国語の節でも内容の充実は「総授業時数を増加させないことが前提」（P134）。高校は必履修の単位数等に変化なし（現代の国語2単位→現代の国語Ⅰ4新単位、言語文化2単位→言語文化Ⅰ4新単位）。選択科目は現行各4単位から、標準科目各8新単位・発展科目各4新単位へ（P80・P82）。新単位は1単位の学習量を17コマとしたもの。

5 生成AI・ICTとの付き合い方

7項目

1. 生成AI時代に「人間ならではの言葉の力」を
AIが言葉を大量につくり、SNSで簡単に発信できる時代だからこそ、言葉の意味を理解し、自分の考えを形にして表現し、他の人の経験や気持ちを理解する「人間ならではの言語能力」を育てるとされています。P128 P130 P140 資料編(1)P46 資料編(1)P139

2. AI要約をコピペする実態への対応
検索結果の一番上に出るAIの要約を、よく考えずにそのままコピーする実態が見られます。集めた情報が信頼できるか、妥当かを確かめたうえで、自分で考え・判断し・表現できるように指導することが重要とされています。P129

3. 生成AIを使う原則：ねらいに合うときに、出力も比べて吟味する
生成AIを含むICTは、発達段階をふまえ、授業のねらいに合うときに使うのが原則です。AIの出力も比べて吟味する対象であること、自分で考えた内容を自分の言葉で説明し責任を持つことを基本にします。P140

4. AIの使用に特に慎重であるべき場面
文章の全体をつかむための要約、最初の考えを文章にする活動、書くための構成を考えたり情報を選んだりする活動など、その単元で育てたい力に直結する場面では、AIを不用意に使うことに慎重であるべきだとされています。子供自身が行うべき考える・判断する・表現する過程がAIに置きかわらないよう特に注意します。P140

5. 評価は「情報を確かめて自分で考えたか」を重視
評価では、集めた情報の信頼性や妥当性を確かめたうえで、それを使って自分で考え・判断し・表現できているかという観点を、当面の基本的な考え方としてより重視するとされています。技術の進展による変化にも対応が必要とされています。P140

6. 語彙：AIの時代こそ実感のある言葉を
生成AIが発展する中、人間ならではの実感を伴った理解・思考・表現を支える語感を磨き、語彙を豊かにする学習を充実させるとされています。P136

7. ICTは特性に応じた学習と多様性の包摂に有効／書写は手書きを重視
ICTは話す・聞く・書く・読む活動で、子供の特性に合った学習をするのに役立ち、多様性の包摂の点でも重要です。一方、タイピングが増えても書写の指導は引き続き重視し、特に小学校では手書きを丁寧に指導するとされています。書字に困難のある子供には、デジタル学習基盤の活用や代わりの方法を積極的に用意します。P140 P141

6 今からできる準備チェックリスト

7項目

- [ ] 今すぐ 今の年間指導計画の単元を、「話や文章の機能」（仮称）の4つ（事実や知識の整理と理解／考えや主張の理由付けと吟味／思いや経験の表出と想像／協働による考えの深化や合意）で色分けし、領域をまたいでつなげられる単元の組（例：論説を読む・意見文を書く・提案のスピーチをする）を1組見つけて、続けて教えてみます。P131 P134 P139
- [ ] 今すぐ 要約する、最初の考えを書く、文章の構成を考えるなど、その単元で育てたい力に直結する場面では生成AIを使わせない、といった「使う場面・使わない場面」を教科会で話し合い、学年でそろえておきます。P140

- [ ] 今すぐ 単元計画に、途中で学習状況を見取って声をかける場面（形成的評価）を書き込み、単元末の知識だけのペーパーテストで評価を済ませていないかを点検します。P129 P142
- [ ] 告示まで 「知識及び技能」を、話す・書く・読む中で使って深めるもの（文章の構成、表現の仕方など）と、教養として深めるもの（言葉のきまり、古典、書写、読書など）に仕分け、前者は複数の単元を経てから、後者は単元末や学期末にまとめて評価する計画を1学期分試します。P131 P135 P142
- [ ] 告示まで 司書教諭・学校司書と相談し、読書のきっかけづくり（ブックトーク、読書会、ビブリオバトルなど）と、自分から読む読書へ移るための学習を年間計画に位置付けます。P129 P136 P141
- [ ] 告示まで 書写で評価する「文字を整えて書く力」と、ほかの学習で表現の手段として書く文字とを分けて評価の対象を確かめ、書字に困難のある子供にはデジタルの活用や代わりの方法を用意しておきます。P141
- [ ] 全面実施まで 教科書の「基幹教材」と「関連教材」の区別を見越し、同じ「話や文章の機能」の教材を束ねて、時数に応じて関連教材の扱いを増減できる単元計画の型を校内で作っておきます。P139

7 次期を先取りする授業アイデア

1本

小5　1単位時間（45分）

読む・書く・話すをつなぐ「主張と根拠」

同じ主張を3つの形で読み比べると、領域をこえて使える「骨組み」が見えてきます。

手順・ワークシート

ねらい

主張と理由・根拠の関係に着目して3種類の文章を読み比べ、形がちがっても「考えを理由や事実で支えて、相手の納得を促す」という同じ働きをしていることを、叙述をもとに説明できる。

流れ

- 5分 先生がポスターを見せ、「このポスターは、みんなに何をしてほしいと言っているかな」と問います。続けて「同じことを、意見文とスピーチでも伝えてみたよ」と3つを配り、めあて「形のちがう3つの文章を比べて、共通する『しかけ』を見つけよう」を示します。
- 10分 一人で、3つの文章に色を付けます（主張＝赤、理由＝青、根拠となる事実＝緑）。スピーチは録音を聞いてから原稿に色を付けます。
- 10分 ペアで表に整理し、「同じところ」「ちがうところ」を話し合います。同じ：主張は1つで、理由と事実で支えている。ちがう：ポスターは根拠が短い、スピーチは主張を最初と最後に2回言う、意見文には反対の考えへの答えがある、など。
- 10分 全体で共有します。先生は3つを横に並べて板書し、子供の言葉で「主張を理由や事実で支えて、相手に『なるほど』と思ってもらう文章」とまとめます。こういう働きをする文章の仲間が、これからの「読む」「書く」「話す」単元でも出てくることを予告します（仮称の用語を子供に覚えさせる必要はありません）。
- 7分 自分ならポスターにどんな根拠を1つ足すかを考え、付箋に「足す事実」と「それがなぜ主張を支えるか」を1文ずつ書いて、表のポスターの列に貼ります。
- 3分 振り返りとして、「次に意見文を書くとき（スピーチをするとき）に使えそうなこと」を一言書きます。

評価

【思考・判断・表現（読むこと）】色分けと表から、主張と理由・根拠の関係を叙述をもとに捉えているかを見取ります。付箋では、足した事実が主張を支える理由を説明できているかを見ます。この時間は単元の導入なので形成的評価にとどめ、つまずいている子供には「この事実があると、なぜ『やろう』と思えるの？」と問い返します。まとめの評価は、後の意見文やスピーチの単元で行います。

8 指導案（試案）

1本

小学校第5学年　国語　全8時間（本時は第4時）

図書室をもっと楽しい場所に ～集めたデータを根拠に提案文を書こう～

中教審の審議まとめ（2026年10月5日）で示された、国語科の「思考力、判断力、表現力等」を「話や文章の機能」（仮称）を軸に整理し直すという方向性を先取りした試案である。次期学習指導要領はまだ告示前であり、本案は審議まとめと資料編のイメージをふまえて作成した一つの例で、確定した内容ではない。前の単元…

指導案の全文

本時のねらい

読み手（図書委員会・学校司書の先生）が納得できる提案にするために、集めた材料が根拠として確かなものかを3つの観点で確かめ、主張を支える根拠を選んで構成メモにつなぐ。

本時の流れ

- **5分** **導入** 前時に書いた材料カードと単元のゴールを確かめる。教師が用意した「よくない例」（主張は「昼休みも図書室を開けてほしい」なのに、根拠が「となりの学校ではそうしているらしい」だけの短い提案）を読み、本時のめあてをつかむ。
- **8分** **展開** 前の単元で読んだ論説を開き、筆者が根拠として使っていたもの（調査の数字、だれが調べたか、いつの調査か）を確かめる。根拠を確かめる3つの観点（①どこから出た情報か ②いつ・何人に・どうやって調べたか ③主張とつながっているか）を全体でまとめる。
- **15分** **展開** 同じテーマの3～4人のグループで、自分たちの材料カードを根拠チェック表で確かめ合う。カードに◎（そのまま使える）、△（確かめが必要）、×（根拠には使わない）を付け、△には何を確かめればよいかを書き添える。
- **10分** **展開** 一人で、主張を支える根拠を2つ選び、構成メモに「主張―理由―根拠」を線でつなぐ。「～という結果から、～と考えます。」の形で、根拠と主張をつなぐ一文（理由付け）を書く。
- **7分** **まとめ** ペアで構成メモを読み合い、「この根拠なら納得できる」「ここはもう少し確かめたい」を伝え合う。全体で、主張と根拠のずれに気付いて材料を選び直した例を紹介する。ふり返りに、根拠を選ぶときに大切だと思ったことを書く。

PDF版：shidoan-sho5-kokugo-library-proposal.pdf（ダウンロードコーナー）

9 現行の学習指導要領・解説（小学校）

PDF **小学校学習指導要領（平成29年告示）（本文）**
https://www.mext.go.jp/content/20230120-mxt_kyoiku02-100002604_01.pdf

PDF **小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編**
https://www.mext.go.jp/content/20220606-mxt_kyoiku02-100002607_002.pdf

文部科学省の公式PDFです（クリックで開けます）。

ご利用について

- **研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。ご連絡は不要です。**
  （校内研修・教育委員会の研修・教員養成の授業・学年会・PTAなど）
- クレジット「原田英語.com 次期学習指導要領ナビ」
  （https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/）はそのまま残してください。
  各ページの下に入っています。
- 中身は中央教育審議会 教育課程部会「次期学習指導要領等に向けた審議まとめ」（2026年10月5日）ほか文部科学省の資料をもとに、原田英語.comが要約したものです。**告示前の方向性**で、答申・告示で変わることがあります。（仮称）の名前も今後変わる可能性があります。
- 文中の P〇 は審議まとめ本体（PDF）のページ、**資料編（1）～（3）P〇** は第3部 資料編（PDF）のページです（PDFのページ番号。印刷されたページ番号とは1つずれることがあります）。PDFで見ているときはクリックで原文が開きます。
- 授業アイデア・指導案は、審議まとめの方向性をふまえた原田英語.comのオリジナルの試案です。
- 最新の情報・ほかのPDFはサイトで：
  https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/download/（2026年11月4日 版）

サイトで最新版を見る